

中日ニュース

シネスコ版

道新 1616 榎森町の火災 - 1620 (本編トリア追加)
 丁衛工の石炭の輸送ダイヤ - 1621 (本編トリア追加)

高知新 1624 本編同
 新愛媛 1619
 中コ新 1680

No. 406 36.10.27

一、つまづいた「倍增政策」

— 東京・大坂

金融引締めのはげは、中小企業の倒産など、ようやく深刻な影響をみせはじめています。池田さんの所得倍增政策は、異常な成長ムードをかきたて消費ブームとあいまって景気の過熱となり、折からの貿易自由化を背景とした設備投資ブームは、輸入超過となって、国際収支の悪化を招いたのです。

こうした中で、日銀は、公定歩合の引上げを皮切りに金融の引き締めを強化。甚大な設備投資を抱えた大手が、増資に踏み切ったため、大口の換金売りとなつて株式市場は暴落につぐ暴落。ついに主婦がガス自殺する事態になつたのです。

一方、大企業の金詰りは、下請け中小企業にも波及し手形の期間がのびる一方不渡手形が続出。倒産する会社が相つき、負債総額も十月だけで軽く百億円を突破する見込みです。会社がつぶれて、悲嘆にくれる従業員、金策に血眼になつている中小業者の姿はつまづいた所得倍增政策のシワ寄せを一身に受けているのです。

日本の群像

一、海に生きる素人劇団

魚の匂いが町一杯にただよう三陸沿岸の漁師町、宮古……。そしてここにこのひなびた東北の漁師町を背景に、つねに生命の危険にさらされている漁師としての家族をテーマに、数々の芝居を手がけてきた「麦の会」という演劇グループがあります。

先代までは漁師だったという田中さんをリーダーに十五人、ほとんどの人がこの漁師町に生れ、そして育ち……。

この町の生活のすべてが肌深くしみ込んでいる人ばかりです。今は丁度、秋の公演を前にやはり漁師もの「海の女」のりハーサルに余念がありません。その「海の女」とは……。ある夜、一隻の漁船が遭難、船と運命を共にした漁民、そしてとり残されたその妻が、たまたま生き抜いてゆくというストーリー……。

この町にはどこにでもころがっている様な話なのです。

680円

240円

440円